

昭和の南海地震体験談

氏 名:谷本 晋一(たにもと しんいち)

生年月日:昭和 12 年 4 月 25 日

地震を体験した場所:田辺市

当時の家族状況:父、姉、弟



1) 地震発生時の状況

当時 9 歳、自宅で寝ていたら、父に引っ張られるように起こされた。

一旦、家の門(麦畑)で一時避難して、父が「こんな大きな地震なら津波来る」と言って、余震の中、家に戻り、父の「着替え!」で着替え、「山へ逃げ!」で、弟と自分の山(梅畑)まで逃げた。

2) 津波襲来時の状況

最初は“バリバリ”、“ザザー”という波の音は聞こえた。

段々、時間と共に夜明けで、繰り返す波など景色が見えてきた。

3) 家族の行動・被害

父は米を 2 斗持った。姉は着替えを持った。私は、父が出して来ていた登記書などの入った大事なトランクを、持って山に居た。

4) 集落・周囲の被害

隣近所の人たちも、谷本さんの山の梅畑(海拔 20m 位)に、避難して無事。山を降りたら、平屋建ての家、天井上、30cm浸水、近所も皆、同様。逃げ遅れた近所のお爺さんが、軒先にぶらさがっていたのを、若い男性達で、助けて担いで山に上げて、津波でずぶ濡れだから、暖をとってあげていた。



この地区では 1 人死亡。(84 歳のお婆さん・「この家で死ねたら本望」と逃げなかった・寝たきりだったらしい)。市全体では 69 人死亡。

新庄公民館提供

5) 地震・津波後の生活

片付けは、父に言われるままに、「これ、あっち運べ」「あれ、あっち運べ」しただけ。

被害の無かった親戚が来て、助けてくれた。

夜は、死んだ母親の実家が近くにあって、そこに 1 ヶ月ぐらいお世話になった。

湾からの、津波の襲来で、被害の有無は、はっきり区切られていた。

昭和 22 年 6 月 8 日の天皇さんの巡幸には、学校から並びに行った。

6) 次の災害への備え

当時、この地区の湾を防潮堤作って、チリ津波(S 35,5,24)から守った。

その後、湾自体を小さくして埋め立てした。(S41、6 完成)

気になるのは、湾には、常に 450 トン級の大きな船が一艘～二艘停泊して、砂利を積み下ろししている。漁業組合が管理する船が 100 隻ある。

巨大地震津波となると、大きな 450 トン級の船は、防潮壁、堤防を越えるだろう。昭和の津波どころの被害で収まらない。何とか5m～6m、土を積んで対応できるようにと、早急に盛土しているが、巨大津波ではもたないだろうと、不安である。

